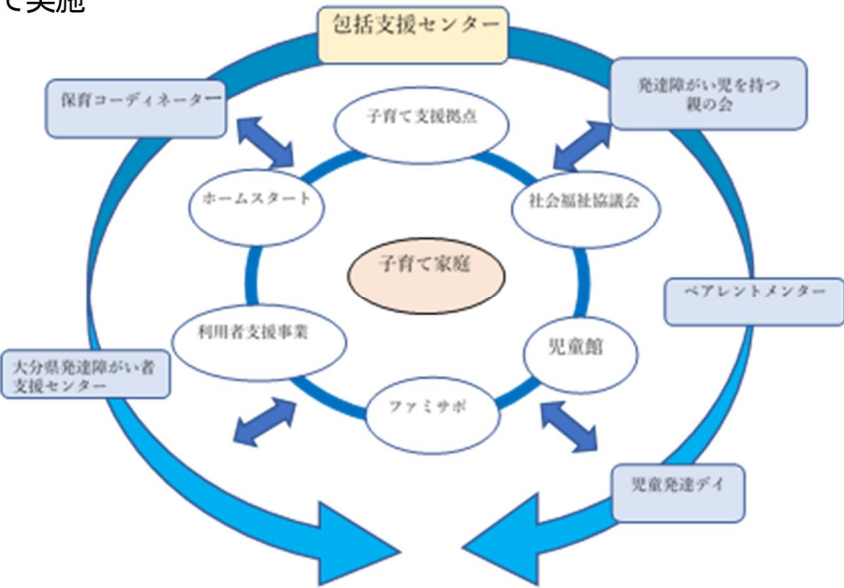


各委員から事前にいただいたご意見等

「子育て支援の充実に向けた関係機関・団体の連携強化」について、課題に感じていることや、各団体等での独自の取組み、連携強化に向けたご提案など、いただいたご意見をまとめたものです。

委員名	ご意見等
<p>阿部委員 (日出町社会福祉協議会)</p>	<p>【独自の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援サービスを多機能型、多職種協働で実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠期から切れ目なく見守ることができる ・ 利用者が色々なサービスに繋がりがやすい ・ 情報を共有でき、寄り添った支援ができる ・ 専門的な支援につながる  <p>【連携強化に向けた提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種協働 <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援しようとしている人の全体像を捉えて支援する。他の機関や自分の機関の役割を理解した上で、それぞれの機関の強みを生かした支援を考えて、つなぐことが重要 ・ 全体像が見えるようにケース会議等を実施し、つなぎっぱなしや、やりっぱなしにならないようにする ・ コーディネーターが必要 ・ インフォーマルな資源とつながる
<p>岡田委員 (大分大学教授)</p>	<p>子育て支援について、貧困や育児放棄など困難に直面している子どもを支援するための施策と、具体的な困難は感じていないがよりよい成長のための取組を支援するための施策との双方を、なるべく連続性を持って実施する必要を感じる。そのため以下の3つのテーマで取組を検討することが望ましいと考える。</p>

委員名	ご意見等
	<p>1) 情報共有 困難に直面している子どもの支援については、行政や児童養護施設、地域組織、NPO、など様々な組織・機関が対応しているが、困難の内容によって対応する組織・機関が異なり領域横断的な情報共有が十分ではない部分がある。自主的な情報共有のためのネットワークが形成されることが理想かも知れないが、当面は県の担当各課で情報を出し合い、把握した情報を関係の組織・機関に発信するなどの取組から進めていくことが有効ではないかと考える。</p> <p>よりよい成長に向けた子育ての取組については領域がさらに広いため具体的な情報共有の方法がイメージしにくいですが、特に地域組織やNPO などでは関わりのある内容についてしか認知していない状況もあるように感じられるので、領域同断的な情報共有を進める必要がある。</p> <p>2) 連携・協働の取組推進 行政や地域組織、NPO などがそれぞれ個別に取組を行うだけでは成果が限定的となり波及効果が必ずしも高くないことから、これまで連携・協働を行ったことがない（少ない）主体間で連携・協働して子育て支援を行うモデル事業を実施することが望ましい。</p> <p>3) 地域での仕組みやプラットフォームの形成 連携・協働を単発の限定的なものにせず、継続的に活用できる仕組みや汎用的に活用できる地域プラットフォームへ発展させるための調査研究やモデル事業を実施できるとよい。</p>
加藤委員 (大分県公認心理師協会)	<p>大分県公認心理師協会では、子育て支援の活動については以下のような取り組みをしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 市町村の乳幼児健診や発達相談への会員派遣 ② 県教委と連携してスクールカウンセラーへのサポート ③ 研修会開催「子どもの発達を支援する～乳幼児期から学童期へつなぐ～」(2020年度) <p>中でも、今後スクールカウンセラーへのサポートは重要課題と考えています。</p> <p>そこで、今後のスクールカウンセラー活動については、現在、以下の項目を強化したいと検討しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの質の向上を目指す研修会実施 <p>組織や関連領域との連携できる心理支援の実際について学び、地域の実情にあわせた「地域ごとの研修会」や、コロナ禍や多様性など社会状況や新たな価値観への対応を含む「テーマ別の研修会」を実施する。</p>

委員名	ご意見等
	<p>・スクールカウンセラーサポートのためのネットワーク構築</p> <p>近年、災害や事故・事件などによって、子どもや学校全体が影響を受けることも少なくなく、スクールカウンセラーへの緊急支援要請も増加している。</p> <p>特に昨年からは、新型コロナウイルス感染症による影響を最小限にするための心理支援としての緊急支援も認められるようになっている。今後さまざまな有事時に向けてスクールカウンセラーが「チーム学校」を基盤として関係各専門機関との連携の中でスムーズな支援活動が行えるよう、サポートネットワークづくりを強化したい。</p>
<p>川野委員 (大分県商工会議所連合会)</p>	<p>「中小企業・小規模事業者における子育て支援の遅れ」</p> <p>子育て環境の整備に予算や人員を割けない企業は、子育て支援助成金等の申請もままならないのが現状。</p> <p>まずは、各種助成金制度や子育てサポート企業の証である「くるみんマーク・プラチナくるみんマーク」(厚生労働大臣認定)などの認定度を上げることにより、企業における子育て環境の充実に向けた機運醸成を図っていただきたい。</p> <p>【取組み/大分商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児休業等に関する規定を設置(平成4年4月から運用) ・育児期間中における時短勤務を導入 ・育児に係る福利厚生制度(出産祝金、小学校・中学校入学祝金) ・コロナ禍での小学校等休校時に特別休暇を付与(最長5日間) <p>【連携強化に向けて】</p> <p>私ども関係団体が連携して真っ先に取り組めることは、各種会合や広報媒体を通して、傘下会員に情報提供すること。</p> <p>子育て支援に係る情報は逐一、本会議の委員間で共有することとし、各関係機関・団体の構成員・傘下会員等へ周知する体制ができればと考える。</p>

委員名	ご意見等
<p>川原委員 (大分県私立幼稚園連合会)</p>	<p>全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態（Well-being）で成長し、社会で活躍していけるようにすること、誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援ことが重要。</p> <p>児童の権利に関する条約に則り、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのこどもが生命・生存・発達を保障されること ・こどもに関することは、常に、こどもの最善の利益が第一に考慮されること ・こどもは自らに関係のあることについて自由に意見が言え、大人はその意見をこどもの年齢や発達段階に応じて十分に考慮すること ・全てのこどもが、個人としての尊厳が守られ、いかなる理由でも不当な差別的取扱いを受けないようにすること <p>※子ども家庭庁創設にかかわる基本方針（抜粋）</p> <p>以上のことが最低基準（子どもの最善の利益）となる子育て支援の充実が必要だと考えます。</p> <p>こどもを真ん中にして、どのような関係機関や団体との連携を強化していくのが焦点になってくるのだと考えます。</p> <p>乳幼児期で通園するお子さんの課題や連携強化に向けた取り組みとして情報の共有がスムーズにできることが必要です。</p> <p>幼保小の育ちの共有。5歳児の要録だけではない情報共有 各市町村が行う3歳児検診等の情報共有 療育関係機関との情報共有</p> <p>記載しながら難しい問題だと承知しています。乳幼児期のWell-beingを保証できるためにもう一步踏み込んだ政策が必要だと考えます。</p>
<p>川村委員 (愛育学園はばたき)</p>	<p>私からは、「社会的養護経験者」（ここでは、児童養護施設等の措置が18歳等で解除され、家庭復帰とならずに地域で暮らす若者をいう。）の視点、観点で述べさせていただきたい。</p> <p>今回は、「社会的養護経験者の子育て ～原家族資源の乏しさが子育てに与える影響～」と題して、社会的養護経験</p>

委員名	ご意見等
	<p>者の交際、結婚、子育てに付随する生活上の、あるいは経済的・心理的な困難性などに主眼を置いて私の所感を述べたところであるが、今回のテーマ「関係機関・団体の連携強化」について、社会的養護経験者という対象に近接して関わりのある関係機関・団体は、大分県では「児童アフターケアセンターおおいた」、「一緒に歩こう会 居場所サロンわかばハウス」の二つがあると認識している。現在、県内にはすでに子育て支援に関する様々なサービスが展開されているが、社会的養護経験者も含め、県民（子育て中などの人）はどれだけの資源を知っているのだろうか。以前、大学院の討議の中で、他の社会人学生から「子育てで困っている事例をいくつも見ているが、そのような事例において、子育て支援のいろいろなサービスがあることを知っている人が少ない」と情報を聞かせてもらった。特に社会的養護経験者の場合は、原家族など頼り得る人の存在や社会的つながりが乏しくなる傾向にあることが考えられ、子育てで孤立してしまうケースが懸念される。彼ら・彼女らが、一つでも二つでもそういったサービスや支援資源を知り、手を伸ばすことができるように、現行の県の広報取組に加え、例えば先に挙げた二種の機関が子育て支援に関する機関やサービスなどの資源情報を貯蓄しておき、子育てに関して不安や悩みをもっているケースにあたる（相談を受ける）際は、そうした情報を提供できる体制を整えることが一つ重要になるだろう。このほか、児童養護施設退所者の相談を受けやすい立場にあると想定される児童養護施設の職業指導員も、先の二種機関との連絡会等の連携を通じて支援資源の情報を貯蓄しておき、退所児童であって子育ての相談がある者に対して必要な情報提供を行うことができる状態が望ましいといえる。</p>
<p>神田委員 (大分県保育連合会)</p>	<p>すべての子育て家庭が、それぞれ必要に応じた支援を受けながら、地域で助け合い、充実した生活を送る。家庭内に愛情が満ち、子ども達が健やかに成長する為に何が必要か。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 身近で気軽に相談できる窓口がある 地域のコミュニティーセンターや、子育て支援施設、また連絡事務所といった小さな窓口であっても、各支援の種類を把握し、子育て家庭への情報提供ができる体制が大切ではないか。 2 大分県の各市町村にネウボラ同様の体制 フィンランドのネウボラのように、妊娠期から出産、6歳になるまで同じ保健師が支援をし、出産・育児不安を解消したり、家庭の養育力を高める等の支援が必要ではないか。

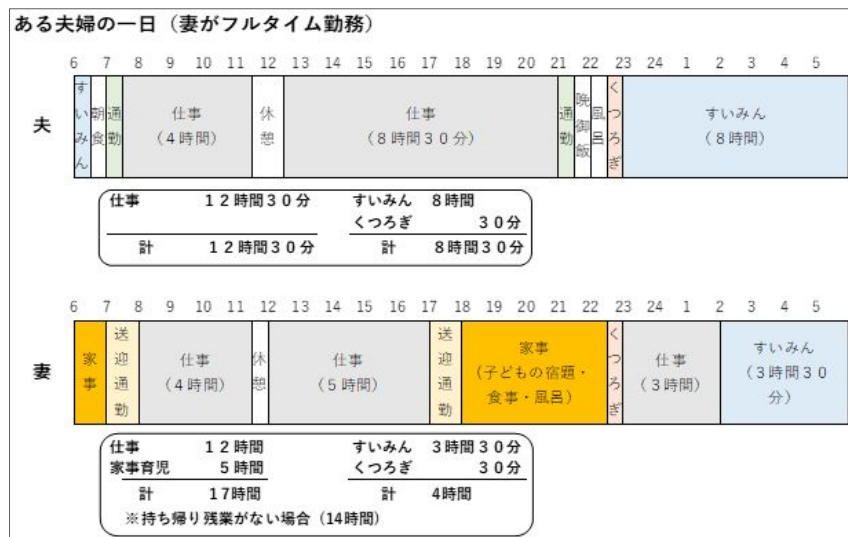
委員名	ご意見等						
久保委員 (別府大学短期大学部)	<p>関係機関の円滑な連携を図るためには、関係機関の機能や仕組及び関連制度等についての的確に把握することが重要であると厚生労働省のホームページから分かりました。今の私は、関係機関の機能や仕組みについての知識が不十分であると感じています。私は、そのように感じている学生は少なくないと思います。そのため、学生にとって、まずは、関係機関の機能や仕組及び関連制度等についての的確に把握することが連携強化において重要になってくるのではないかと考えました。最後に連携を強化するためには、定期的に各関係機関・団体が意見交換をする場を作ることが大切であると考えました。意見交換をする中で各関係機関・団体についての理解を深めることができ、また、連携を円滑に図ることができるため、連携を強化することが出来ると考えました。</p>						
佐々木委員 (公募委員)	<p>この会議の最大の目標「大分県が子育て満足度 No. 1 になるためには？」を達成するために、まずは子育ての日常の現状を把握し、それを多くの人を知ることが大切だと思います。なぜ現状を知る必要があるのか？それは、人は自ら体験をしたことから学べますが、体験をしていない出来事については学ぶことができないからです。そのため、体験していないことについては、大変さなどは理解しがたいのです。</p> <p>例えば企業では17時から21時は、まだ仕事をしている時間帯かもしれませんが、子育て世代は入浴や食事など一番負荷が高い時間帯です。また、22時は企業では突発的な業務対応ができる時間帯であっても、子育て世代においては寝かしつけが終了した「深夜」にあたるかもしれません。時間の感覚は人によってまたは環境によって違うのではないかと思います。</p> <p>1. 図1・・妻が短時間勤務を選択したある夫婦の1日をグラフにしたもの</p> <p>上段が夫、下段が妻です。短時間勤務で一見夫の方が長く働いているように見えますが、帰宅後の妻の家事育児の負荷が高く休憩が取れていないことが分かります。また、短時間勤務でこなせなかった仕事を持ち帰ることもあるかもしれません。それに加え夜泣きをする子どもの対応など、一つ一つは大きな負荷ではないものの、時間がかかり休憩が取れていない現状があります。</p> <div data-bbox="1332 906 2060 1380" data-label="Figure"> <p>ある夫婦の一日 (妻が短時間勤務)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>夫</th> <th>妻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 6:00-7:00 起床 7:00-11:00 仕事 (4時間) 11:00-12:00 休憩 12:00-19:00 仕事 (7時間) 19:00-20:00 通勤 20:00-21:00 風呂 21:00-22:00 食事 22:00-23:00 ぐっすり 23:00-5:00 すいみん (8時間) </td> <td> 6:00-7:00 起床 7:00-8:00 家事 8:00-9:00 送迎 9:00-12:00 仕事 (3時間) 12:00-13:00 休憩 13:00-16:00 仕事 (3時間) 16:00-17:00 送迎 17:00-21:00 家事 (子どもの宿題・食事・風呂) 21:00-22:00 ぐっすり 22:00-23:00 家事 (2時間) 23:00-24:00 すいみん 24:00-1:00 育児 1:00-2:00 すいみん 2:00-3:00 育児 3:00-4:00 すいみん 4:00-5:00 育児 </td> </tr> <tr> <td> 仕事 11時間 家事育児 30分 計 11時間30分 </td> <td> すいみん 5時間 ぐっすり 1時間 計 6時間 ※持ち帰り残業がない場合 (14時間) </td> </tr> </tbody> </table> </div>	夫	妻	6:00-7:00 起床 7:00-11:00 仕事 (4時間) 11:00-12:00 休憩 12:00-19:00 仕事 (7時間) 19:00-20:00 通勤 20:00-21:00 風呂 21:00-22:00 食事 22:00-23:00 ぐっすり 23:00-5:00 すいみん (8時間)	6:00-7:00 起床 7:00-8:00 家事 8:00-9:00 送迎 9:00-12:00 仕事 (3時間) 12:00-13:00 休憩 13:00-16:00 仕事 (3時間) 16:00-17:00 送迎 17:00-21:00 家事 (子どもの宿題・食事・風呂) 21:00-22:00 ぐっすり 22:00-23:00 家事 (2時間) 23:00-24:00 すいみん 24:00-1:00 育児 1:00-2:00 すいみん 2:00-3:00 育児 3:00-4:00 すいみん 4:00-5:00 育児	仕事 11時間 家事育児 30分 計 11時間30分	すいみん 5時間 ぐっすり 1時間 計 6時間 ※持ち帰り残業がない場合 (14時間)
夫	妻						
6:00-7:00 起床 7:00-11:00 仕事 (4時間) 11:00-12:00 休憩 12:00-19:00 仕事 (7時間) 19:00-20:00 通勤 20:00-21:00 風呂 21:00-22:00 食事 22:00-23:00 ぐっすり 23:00-5:00 すいみん (8時間)	6:00-7:00 起床 7:00-8:00 家事 8:00-9:00 送迎 9:00-12:00 仕事 (3時間) 12:00-13:00 休憩 13:00-16:00 仕事 (3時間) 16:00-17:00 送迎 17:00-21:00 家事 (子どもの宿題・食事・風呂) 21:00-22:00 ぐっすり 22:00-23:00 家事 (2時間) 23:00-24:00 すいみん 24:00-1:00 育児 1:00-2:00 すいみん 2:00-3:00 育児 3:00-4:00 すいみん 4:00-5:00 育児						
仕事 11時間 家事育児 30分 計 11時間30分	すいみん 5時間 ぐっすり 1時間 計 6時間 ※持ち帰り残業がない場合 (14時間)						

委員名

ご意見等

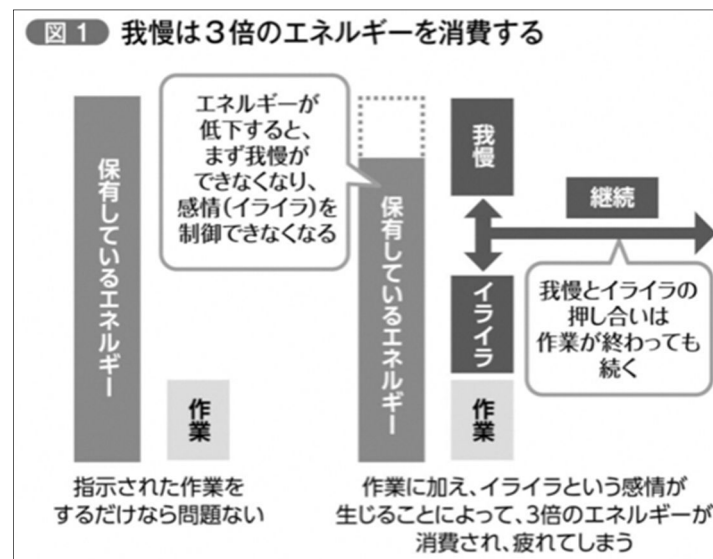
2. 図2・・・夫婦ともにフルタイムの場合

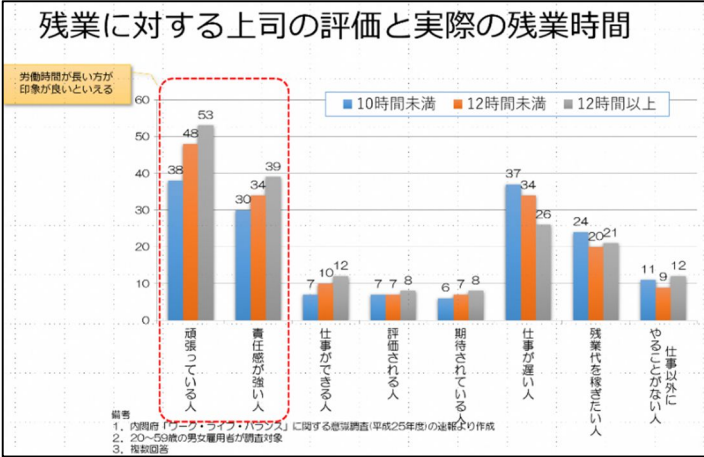
この夫は21時に帰宅するなど長時間労働が疑われます。しかし、妻も帰宅後の家事育児、持ち込み残業で同じようにまたはそれ以上に休めていないことが分かります。お互いに我慢が多くなっている状態かもしれません。



3. 図3・・・自衛隊のメンタル教官の下園氏の我慢とエネルギー消費について

我慢は3倍のエネルギーを消費することとなり保有するエネルギーが低下し、さらにイライラするという悪循環に陥るそうです。この状態では満足な子育て、理想的な子育てがしづらい状況であると思われます。この悪循環を絶つには疲れを取ること、つまり休憩が必要だそうですが、子育ては日々続き休憩がとれないのが現状です。



委員名	ご意見等
	<p>4. 図4・・・残業に対する上司の評価と実際の残業時間</p> <p>では、早く帰宅することは出来ないのでしょうか？これは残業に対する上司の評価と実際の残業時間をグラフにしたものです。残業をしている方が、「頑張っている」や「責任感が強い」など評価が高くなる傾向があるように思えます。これでは早く帰宅して家事育児をしたいと思ってもなかなか実行することができないのが現状です。</p>  <p>5. まとめ</p> <p>共働き世帯が多くなりましたが、多くの場合において子育ては母親が担っています。しかし、核家族が進み母親だけでは子育てが難しくなっているため、男性の育児参加が重要だと思っています。しかし、男性が育児参加をするためには、まずは会社に子育て世帯の現状を知ってもらい、理解をしてもらう必要があると思います。</p> <p>そのためには働き方改革を推進している社労士会、そして経営者協会など経営者が多く集まる機関など新たな機関に目を向け、子育ての楽しさや大変さを知ってもらうための情報を発信し続けると良いのではと思っています。</p>
<p>佐藤委員 (公募委員)</p>	<p>ダブルケアは【パパやママ、家族の困りごとです】</p> <p>ダブルケアになっても当事者のお父さん、お母さん達が子育てしやすい社会になってほしいなと思っています。特に私自身の意見を言わせていただきますと、ダブルケア中に何が困ったか？何を感じていたか？と言うと、①専門職の方々や、自分の住んでいる地域の情報不足 ②イレギュラーな事が起こった時の対応が全くできない（自分自身）③子供を授かることを前向きに考えられない。と、感じていました。</p> <p>以上のことで、行政のみなさんや専門職のみなさんに、気にかけていただきたいことがあります。</p>

委員名	ご意見等
	<p>①ダブルケアは、育児と介護が同時進行になっているために、双方の情報収集がとても大切と感じながらも、役所では縦割り行政のため、当事者は長寿福祉課や障害福祉課、子育て支援課をぐるぐる回りながら窓口には振り回される事になります。</p> <p>子育て支援の専門職の方々も、ダブルケアラーやヤングケアラーの方々が、地域にいと背景を考えながら、そのような部署（介護、障害福祉）の方々との連携をとっていただくと当事者はとてもありがたいです。</p> <p>②ファミリーサポートセンターなど、子育てに困った時に助けてもらえる社会資源はとてもダブルケアラーにとってありがたいです。ですが、登録するためにセンターに面談に行かないといけなことが、とてもハードルが高く正直大変です。</p> <p>③産後、家に帰ってもゆっくりする時間はありません。ダブルケアラーの方々は要介護者が、実母だったりもするので、家に帰れば産院にいるよりもゆっくりする時間もほとんど無く、2重、3重にケアがのしかかかってきます。子どもが小さければ小さいほどダブルケアは大変といわれており、子どもを産むのはダブルケアのお母さんには勇気がいる事です。それは、家の中でのマンパワー不足、アウトプット不足、いろいろな山あり谷ありを乗り越えていくことを考えたうえでの家族計画となり、介護が大変だから次の子は諦めよう。という答えにはなるべくならないたくないですが、そのようにお話する方に本当に出会ったことがあります。</p> <p>ダブルケアラーは、一息する暇もなく育児、介護をしないとイケない現状になり、家に帰れば「SOS」が出せない状況になります。私は、個人的には助産師さんがとてもキーマンだと思っていて、赤ちゃん訪問などで家の中に入ることができる助産師さんや、今後、産後ケア事業などのケアプランを、要介護者の介護ケアプランに組みこませることが出来るようになれば、育児と介護が同時進行になっている方々にとって、子どもを産みやすく、子育てに前向きになれる社会になるのではないかと感じます。</p>
<p>首藤委員 (NPO 法人しげまさ子ども食堂)</p>	<p>現在、しげまさ子ども食堂では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊後大野市子育て支援課と連携して、「支援対象児童等見守り強化事業」を行っております。 <p>週に2回、市内の子育て家庭のべ約20世帯へお弁当を配達しながら見守りを行う事業ですが、地域住民で多様な年代、職種、それぞれいろんな事情を抱えながらも、ご自分で選んだ時間と仕事内容で調理、片付け、メニュー、買い物、会計、コーディネート、配達などを担っております。</p>

委員名	ご意見等
	<p>・大分県のこども・家庭支援課さまとグリーンコープさま、豊後大野市教育委員会としげまさ子ども食堂、地域のボランティアの方との連携で小学校の朝食支援を行っております。</p> <p>12月から始まった取り組みですが、登録人数が77名と全校児童の4分の1の生徒が登録、参加しております。お手伝いして下さるボランティアの方も、回を重ねるごとに子どもたちとお話するのが楽しいとお話ししてくれ、子どもたちも学校以外でもボランティアに声をかけてくれる「知っている関係」をつくれています。</p> <p>・また、豊後大野市の「市民まちづくり協働事業」に応募して子どもたちが自分たちで歩いてこれる居場所づくりの開設を行っております。</p> <p>市の児童主任委員さん、こども園、民生委員さんや自治区、社会福祉事業所等に声かけをして、開設可能な場所の確保、地域ボランティアの募集等を行い、月に1回ですが、安心して子どもたちが遊べる場所を開き遊びを創造したり、おやつを食べたりできるよう準備をしております。(現在3か所開設、1か所準備中です) 今後、子どもたちだけでなく地域のお年寄りが気軽に立ち寄れるようにしたいと自治会役員さんからも期待していただいております。</p> <p>私たちの活動は、そもそもほかの団体や個人の方にご協力頂かないとできないことが多く、そのために情報をたくさん受け取れるよう、日ごろから気を付けています。</p> <p>県内だけでなく、全国の子ども食堂の運営者との定期的な情報共有。(FBのグループでつながり、ZOOMで会議) 全国的な協議会への入会、メルマガ登録等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国子どもの貧困教育支援団体協議会 ・子どもの貧困対策支援 あすのば ・キッズドア ・豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク ・LFA (こども支援ナビ) ・日本フィランソロピー協会 ・おやつクラブ ・チャリティーサンタ ・ムラノミライ等 ・日本銀行金融広報アドバイザー等
<p>祖父江委員 (地域子育て支援拠点 よいこのへや)</p>	<p>【課題と感じていること・その対応について】</p> <p>①共働き増加・母親の早期仕事復帰等の理由により、乳幼児期をゆっくりと過ごす時間が減り、母親同士が相互援助し、育ち合う関係性が築きにくい。そのため、より質が高い子育て支援が妊娠期から求められており、必要性を感じているものの、第1子妊娠中の母親へ情報が行きづらい。</p>

委員名	ご意見等
	<p>産婦人科との連携も考えられるが、市の母子保健との連携を強化した方がより確実だと考える。</p> <p>→（対応案1）市が実施する乳児家庭全戸訪問に同行する。</p> <p>（対応案2）母子手帳交付～出産の間に、拠点巡りツアーを組み、同行する。</p> <p><u>利用者 ⇄ 顔の見える関係性を強化したい。（が、現場のマンパワー不足）</u></p> <p>②父親支援：父親が情報を得るには、複数のアプローチが求められるが、不足。（利用者がほぼ一緒）</p> <p>→（対応案1）「プレパパ・プレママデー」実施により、第1子出産前から拠点を認知してもらう。</p> <p>→（対応案2）保育園・こども園とも連携をし、現在就園中の子どもがいる父親にも利用できる場であることを認知してもらう。<u>家庭調和及び子どもの育ちにパパが主体的になれるようなきっかけ作りを継続していきたい。（が、なかなか継続実施に至っていない）</u></p> <p>【よいこのへやにおける現時点での取組み】</p> <p>①子ども子育て課・母子保健と連携事業を実施予定</p> <p>◆令和4年度：共催で奇数月6回「プレパパ・プレママデー」を実施予定。現在までに2回実施。</p> <p>→ねらい：母子保健の課題（母子手帳交付から産後まで妊婦と関わる機会がない・妊婦管理が行き届かない）と、地域子育て支援拠点の課題（早期からの利用を促進したいが、第1子妊娠中のママの情報がなかなか得られない）、双方を補完するもの。</p> <p>→内容：パパの妊婦体験、保健師より妊娠中及び産後における身体的側面からの説明・栄養指導、イクボンの活用、パパ・ママ分かれて座談会、育休中のパパと繋がる機会を作る、絵本や遊びの紹介など。</p> <p>②令和3年12月～、現行のFacebookに加えInstagramを開設。（情報ツールの展開と横の繋がり）</p> <p>◆どんな環境で・どんな事をしていて・どんなスタッフがいるのか、写真で公開し、来所に対する敷居を低くできるよう、工夫した投稿を心がけている。</p> <p>→写真があるので初めて来た気がしない、安心できるとお声をいただいた。（初回利用前にFacebookを見て）</p> <p>→活動に共感してくださり、新品おもちゃの寄付をいただいた。（Instagramを見て）</p> <p>◆現在臼杵市にある4つの拠点のうち、3拠点でInstagramによる情報発信中。</p> <p>それぞれフォローし合い、情報発信の連携をより強化していく。</p> <p>【行政と多拠点との関係】</p>

委員名	ご意見等
	<p>◆数年前より、市内の拠点連絡会議を開催（市が音頭取り） →臼杵市の地域子育て支援拠点の現状：4拠点中、3拠点が車で10分圏内の密集地域。 それぞれの拠点の強みを生かし、市全体として子育て支援のバランスが良ければよいと考えるので、市の保健師と、各拠点担当者同士の連携をより強化していく。</p>
<p>高橋委員 (大分県助産師会)</p>	<p>パパとして自覚するのは立会い出産で、赤ちゃんがまさに生まれ、おぎゃーと泣いた時といわれます。ママとして自覚するのは、母乳をあげ始め吸われる時といわれています。その時に立ち会うのが助産師です。いかに「命」を伝えるか？妊娠してから寄り添えるのも助産師です。大分県には、助産師会に入っている助産師だけでも約200人います。それぞれ勤務や地域保健で動いています。現在はほとんどが施設分娩になって育児がスタートして5日目で自宅にもどります。育児不安、育児技術の未熟、母乳育児の未確立等を抱えてまま専門家から離れます。そういう現状の中で施設と地域の助産師の連携強化は、今以上にしていく必要性を感じています。また地域においては、行政の母子担当の方とも連携し、乳幼児期を中心に切れ目ない支援の取り組みをしていきたいと思っています。</p> <p>と同時に、パパ、ママ以前のリプロダクツヘルス・ライツについての普及活動強化が、広義での前向きな子育て支援に繋がると考えています。</p>
<p>武津委員 (大分県小学校長会)</p>	<p>前回もお話しましたが、学校だけで解決できないことが増えています。他の関係諸機関との協力が不可欠です。SC、SSWの勤務日数・時間増が、連携強化につながります。ニーズにあった活用ができるよう、お願いします。</p>
<p>田中委員 (公募委員)</p>	<p>私は、関係機関・団体の連携強化は必要だと思えます。</p> <p>子育てをされていて思うことは、子どもの成長のために何をどうしたらいいのか、悩みながら子育てをされている方がほとんどだと思います。</p> <p>そのためにも、数多くの情報が得られ、またスムーズにそれぞれが欲しい情報が得られるような仕組みづくりが整うことが大切だと感じています。</p> <p>大分市の子育て情報サイト『naana』はとても使いやすい情報サイトだと思います。InstagramやフェイスブックなどのSNSを使った情報公開もあれば、より多くの子育て世代に情報を広められると思います。</p> <p>ただ、幼稚園・保育園・こども園の他に、放課後等デイサービスなどの施設情報も掲載されると良いのではないかと</p>

委員名	ご意見等
	<p>思います。</p> <p>そして、なかなか子育て世代に知られていない、地域の子育てサロン事業やファミリーサポートセンターに関して、それぞれの活動写真の掲載や、ファミリーサポートセンターでは、実際に利用した方の声や援助してくれる方の会員者の情報などが得られると、より利用する人が増えるのではないかと思います。</p> <p>より多くの子育て世代に、たくさんの子育て情報が提供されれば、利用したい活動やサービスを届けることにつながると思います。そのためには、関係機関や団体との連携強化が必要になってくるはずです。</p> <p>Jouet Boite(ジュエ ボワット)でも子育て支援事業を考えており、4月から活動開始が出来るよう、準備を進めています。主な事業内容として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0～2歳の親子が通える移動親子保育園 ・ 遊びながら学んで成長できる子育てプラザ開催 ・ 育児相談・指導 <p>を考えております。(オンラインでの開催も考えています。)</p> <p>保育士として、また、現在子育て中である母親の一人として、大分のママたちと一緒に子育てをしながら、寄り添える存在として子育て支援につなげていきたいと考えています。</p>
<p>富高委員 (大分県立看護科学大学)</p>	<p>オンラインの会議や研修等を行い、多く顔の見える関係を築くことで関係機関や団体の連携を強化することができると思う。</p> <p>コロナ禍で人と会う機会が減少し、直接会って関係を作ることが難しくなっている。そこで、Zoom等のオンラインツールの活用によって関係機関同士の交流を持つことができるのではないかと考えた。感染が心配で会議などの参加を躊躇することや、遠方からの場合、会場までの移動時間がかかることなど、対面での会議に参加しにくい可能性が考えられる。オンライン会議を行うことで、上記の点が解決され気軽に参加しやすくなり、さらに参加者の増加が見込まれる。</p> <p>参加者が増えることで、新たな交流が生まれると考える。Zoomであればブレイクアウトルームといった機能を活用することで、少人数のグループを作成して活発な意見交換を行うことが期待される。このように、参加者同士の語る機会を設けることで、オンライン開催でも交流を深められ、顔の見える関係を作ることができると考える。</p> <p>顔の見える関係を多く築き、強化していくことで、対象家族への支援の際に他の支援者や関係機関に相談しやすくな</p>

委員名	ご意見等
	<p>ったり、紹介されて新たな繋がりが生まれたりするといった、より連携強化が可能になる。</p> <p>また、オンラインを活用することで、交流以外にも、円滑な資料の共有ができること、会場費等の負担が減ること、外部からの講師を気軽に呼べることなど多くのメリットがある。オンラインはコロナ禍に限らず今後も活用できる交流の手段の一つとなるのではないかと考える。</p> <p>以上のことから、気軽に参加できるオンラインの会議等により関係機関や団体の連携を強化することで、子育て支援の更なる質の向上に繋がると考える。</p>
<p>姫野委員 (大分県民生委員児童委員協議会)</p>	<p>保健師さんと連携して、必要に応じ子育て家庭の訪問や見守り活動に取り組んでいる。</p> <p>また、保健師さんから担当校区内の親子を、地域子育てサロンに紹介されることがあり、その後、継続して情報を交換していくケースもある。青少年健全育成協議会と協力して、地域でのパトロールや情報交換をしているがコロナ禍にあり継続できない。</p> <p>子育て家庭を地域の中で、見守り支援していく上で、関係機関、団体の連携は必要不可欠であり、そのためには、日常から情報共有、意見交換が行われることが大事であると思う。</p>
<p>宮脇委員 (大分県社会福祉協議会)</p>	<p>子ども食堂による「おおいた子ども食堂ネットワーク」を令和元年度から組織している。子ども食堂同士のつながりや地域、個人、企業・団体等とのつながりづくりに努めている。地域の取り組みに理解いただける個人、企業・団体等の善意をできる限り子ども食堂や居場所に届けることができるよう取り組みたい。</p>
<p>吉田委員 (大分県社会的養育連絡協議会)</p>	<p>～当法人の取り組み～</p> <p>当法人（社会福祉法人小百合愛児園）においては、地域の子育て支援ということで、2つの具体的な取り組みに力をいれ、また今後ますます充実させていきたいと思っています。</p> <p>1. 2022年7月には放課後学童クラブを新築し、ハード面の整備が完了予定。親御さんの仕事等で大半の時間を学校と放課後クラブで過ごす子どもたちが増えています。安心してお預かりする環境だけではなく、保護者の皆様の相談役になれるよう意図的な声掛けと話を聞く姿勢をもって丁寧な対応を心掛けています。長期休みの時などは、働く親御さんの声を聞いて、am7:30～pm19:00まで開所時間を延長して対応しています。不登校傾向にあたり、発達に問題を抱える子どもたちを抱える親御さんの良き相談相手であると同時に、居場所となっています。</p> <p>2. 子育て短期支援事業として、契約市町村からの「ショートステイ」「トワイライト」の受け入れに力を入れています。</p>

委員名	ご意見等
	<p>施設の現状が許す限り受け入れられるように努めていても最近、情緒・発達にも課題を抱えるお子様が多く手がかかるということでお断りせざるをえないケースもあります。しかし、直接、子どもを預かって欲しいとの電話を頂いたり、ショートでお迎えに来た帰り際にもっと頻繁に活用させて欲しいなどの依頼を受けることもありニーズの高さも感じています。相談する場も大事ですが、実際に子どもを預かって一息つきながら子育てをしていくことができるこの事業をさらに促進していくためにも、一緒に考え、子育てをしていこうとする歩みと制度としてのしっかりとした位置づけが必要だと思っています。</p>